

Bacchus®



Bacchus Global series エレキベース 最新モデルガイド

選べる！ スケールバリエーション



Bacchus Global series から、異なる3つのスケール(弦長)からお選び頂ける今までにないベースラインナップが登場しました。上位機種 WOODLINE DX の機能性をそのままにコストパフォーマンスを追求した新しい WL ラインナップから、よりプレイスタイルにフィットした一本をお選びください！！

希望小売価格：

4 弦・フィリピンアルダーモデル・・・¥65,000(税抜) | 5 弦・フィリピンアルダーモデル・・・¥75,000(税抜)
4 弦・アッシュモデル・・・¥100,000(税抜) | 5 弦・アッシュモデル・・・¥110,000(税抜)

※各モデルのピックガードに添付されたラベルでスケールをご確認頂けます。



PHILIPPINE ALDER BODY フィリピンアルダーボディ

						
モデル名	WL-433	WL-533	WL-434	WL-534	WL-435	WL-535
希望小売価格(税抜)	¥65,000	¥75,000	¥65,000	¥75,000	¥65,000	¥75,000
BODY	PHILIPPINE ALDER					
NECK	MAPLE					
FINGER BOARD	ROSEWOOD					
SCALE	33 inch		34 inch		35 inch	
WIDTH at NUT	38 mm	46 mm	38 mm	46 mm	38 mm	46 mm
NUT	ACRYL					
BRIDGE	JB Type					
PICKUPS	J Type					
CONTROLS	2Vol, 1Tone(Pull up Turbo SW)					
FINISH	URETHANE					
COLOR	BLK,SWH,DLPB,CAR,GRM					

ASH BODY アッシュボディ

						
モデル名	WL-433ASH	WL-533ASH	WL-434ASH	WL-534ASH	WL-435ASH	WL-535ASH
希望小売価格(税抜)	¥100,000	¥110,000	¥100,000	¥110,000	¥100,000	¥110,000
BODY	ASH					
NECK	MAPLE					
FINGER BOARD	ROSEWOOD または MAPLE					
SCALE	33 inch		34 inch		35 inch	
WIDTH at NUT	38 mm	46 mm	38 mm	46 mm	38 mm	46 mm
NUT	ACRYL					
BRIDGE	JB Type					
PICKUPS	J Type					
CONTROLS	2Vol, 1Tone(Pull up Turbo SW)					
FINISH	OIL FINISH または URETHANE					
COLOR	ローズウッド指板 BLK/OIL,BR/OIL,STB メイプル指板 NA/OIL,WBD					

●掲載内容は発売当時のものです。予告なく仕様・価格の変更を行う場合がございます。●撮影、印刷の特性上、掲載画像の色は実際の色とは異なる場合がございます。



全モデル、ターボスイッチ搭載

コントロール部、トーンポットはフルアップすることで「ターボスイッチ」として機能します。ターボスイッチとは2つのシングルPUをシリーズ接続するもの。ハムバックアップのような太いサウンドが得られ、パッシブベースとは思えない幅広い音作りが可能です。なお、ターボスイッチ使用時はフロントVolノブで音量を設定します。※リアVolはバイパスされます。

どうする？弦の数

弾きやすさと演奏ジャンルのかね合い



4弦モデル



5弦モデル

昔はベースといえば4弦というイメージが強かったものの、複雑なアレンジの楽曲が無数にある今、4弦ベースと5弦ベースの普及差は無くなってしまったといっても過言ではないのでしょうか。

これからベース購入を検討する際は、「今弾けるかどうか」よりも、実際の演奏ジャンルやベジストとしてどういったスタイルのプレイヤーになりたいか、という点をイメージして選択することをお勧めします。Bacchus WL ラインナップではすべてのモデルに4弦、5弦を展開し、お好みのものをお選び頂けます。

特に5弦ベースではスケールの影響をより感じやすいという側面があります。5弦ベースのサウンドのキモであるLow-Bは35インチスケールするとき、よりストレートで音程感のある音が得られます。ぜひ試奏の際にお確かめください。

ボディ材とカラー

サウンドの軸「ボディ材」とルックスの要「ボディカラー」

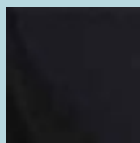
サウンドに大きな影響を与えるのがボディ材。「フィリピンアルダー」と「アッシュ」という木材からお選び頂けます。

フィリピンアルダーは豊かな中音域に特徴があり、粘りのあるサウンドが持ち味。トラディショナルなロックやブルース、泥臭いファンクといったジャンルでよく聞かれる存在感抜群のサウンドです。

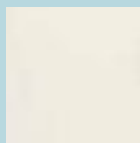
一方アッシュは高音域と低音域がしっかり出てくる印象。抜けが良く、ジャズ、フュージョン、ポップスなどでスラップをする時や、タイトな演奏が求められるジャンルで比較的被選されています。

また、ボディに使用される木材に合わせてカラーリングも決まってきます。フィリピンアルダーはソリッドカラー（塗りつぶし）、アッシュはその木目を生かしたオイルフィニッシュかシースルーカラーをラインナップしています。

フィリピンアルダー



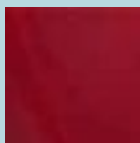
BLK: ブラック



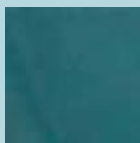
SWH: スノーホワイト



DLPB: ダークLPブルー

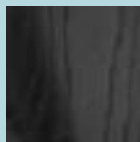


CAR: キャンディアップルレッド

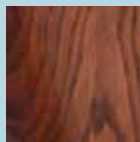


DGM: ダークグリーンメタリック

アッシュ



BLK/OIL: ブラックオイル



BR/OIL: ブラウンオイル

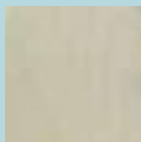


STB: シースルーブルー

メイプル指板



NA/OIL: ナチュラルオイル



WBD: ホワイトプロント



選べるスケール 体に合ったサイズのベースでもっと弾きやすく！

そもそも「スケール」って。

この場合の「スケール」とは弦長 (scale length) を指します。これはナットからブリッジまでの長さのこと。ギターやベースだけでなく、ウクレレ、パイオリン、チェロなどなど様々な大きさの弦楽器がありますが、それぞれの楽器ごとにスケールが設定されています。

楽器の胴のサイズや使っている木材の種類と同様、スケールの長さもそれぞれの楽器を、その楽器たらしめる重要な要素です。

もう少し範囲を限定して、エレキギターではフェンダーギターでよく見られる「ロングスケール (648mm)」、ギブソンのギターで見られる「ミディアムスケール (628mm)」などがありますが、これらもそれぞれ独特の弾き心地や音色があり、ギターごとのオリジナリティを生み出す要因として知られています。

エレキベースの世界でみると、もはや完全なスタンダードとして認知された感のある 34 インチスケール (約 864mm) があり、カスタマイズや個性的なモデルとしてショートスケール (30 インチ・約 762mm) や、エクストラロングスケール (36 インチ・914mm) といったカスタムモデルがありますが、これらはまだ一般的とは言えず「マニアこだわりの仕様」といった雰囲気です。ベースのスケールを知れば、より自分に合ったベースが見つかるはず！新しい Bacchus Global seriesWL ラインナップをスケール別にご紹介します。



33 インチ

34 インチよりも 1 インチ短いスケールが 33 インチ。ジャズ・フュージョンジャンルでのベーシストの速弾きやテクニカルな演奏への傾向は顕著で、それにともない特にハイエンドベースと呼ばれるジャンルでは「多弦」「33 インチ」という仕様が増加傾向にあります。テンションも少し落ち着き、かと言ってショートスケールほど緩い訳でもない、またスケールダウンによって全長も少し短くなることで、全体のボディバランスも収まりよくなりました。サイズダウンすることでテクニカル系のミュージシャンだけではなく、女性や小柄な方も今までより抱えやすく弾きやすい楽器になりました。



34 インチ

フェンダー・ジャズベースで定義され、今までに渡って最もスタンダードとして認知されているのが 34 インチスケール。バランスに優れ、弾いた時のテンション感、音の伸び、いずれの面でも最も馴染み深く、また市場のエレキベースのほとんどがこの 34 インチスケールを採用しています。これ以外の 2 つのスケールを試した上でこのスケールを弾くと、改めてそのバランス感に納得させられます。



35 インチ

34 インチよりも 1 インチ長く設計された 35 インチスケールの魅力は、音の伸びにあります。ショートスケールのベースを弾くと感じられるテンション感のなさ、張りのなさは、スケールがいかに楽器としての演奏性に影響を与えるかを示しています。特に 5 弦というより太い弦を十分に振動させるには、ショートスケールや 34 インチでは心もとない部分があり、Low B の音程感をしっかりと感じるにはスケールを長くすることが最も効果的と言えます。ローポジションではフレット間が若干広めになり、弾き始めは弾きづらく感じられることもありますが、そのデメリットを補って余りある「十分なサスティン」という音色面でのメリットがあります。

※各モデル画像のサイズ比はイメージです。実際とは異なりますのであらかじめご了承ください。